真田高パソ研の日常。

サンチュ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
真田高パソ研の日常。

【Ｎコード】
Ｎ５８４７Ｚ

【作者名】
サンチュ

【あらすじ】
公立真田高等学校２年の平凡な高校生、須崎明。
そんな明が、幼馴染の坂田千夏に誘拐され、「パソコン研究会」なる部活に入部させられる。
このパソ研で、明はどうなっていくのか・・・？
また、どんな恋愛をしていくのか・・・？

プロローグ～波乱に向かって～

ピピピピピピ――――――――――――

目覚まし時計。
朝。午前６時３０分ぐらい。
このうるさい目覚まし時計は、日本人の１／３ぐらいが恐れている兵器。

目覚まし時計に一喝してから、俺はもう一度目を閉じ――――――

「お兄ちゃん！もう朝だよ！」

妹。ああ、もう朝か。
っていうかさっき６時３０分って言ったか。
忘れてた。

「お兄ちゃん！寝るな～！」

朝なのに元気な・・・・
妹はまだ大声を出している。
起きようとも思うんだが、なぜかまぶたが開かない。

だが、途端に俺の
背中に衝撃が走った。

まるで全力のメロスのように。

「いってぇぇぇぇぇ！」

あぁ、もう一度言うが妹だ。

「もう！起きないからだよ！」

俺の妹、須崎美紀。

朝起こしてくれるし、朝食も作ってくれる。自慢の妹だ。

だが――――――荒々しい。

「起きる起きる！」

その後、俺は朝食を済ませ、着替えもした。

後は学校へ向かうだけ。

俺は、この後の波乱の展開も知らずに、学校に向かって歩き出した

――――

第一話　誘拐犯は幼馴染

ここが、俺の学校。

公立真田高校。

普通の高校。

本当は工業高校に入りたかったのだが、

なぜか、成り行きでこうなった。

「お～い！明～！」

バカが歩いている。何故だ。

この怪奇現象は今すぐ報告しなければならない。

誰に？国にだよ。

まるで走馬灯のようにこれまでの記憶が・・・・

「あ～き～ら～くん！」

「いってぇな！」

バカに叩かれるとはなんと不愉快な――

「口に出てるぞ。あと俺はバカじゃねぇ」

思ったことを口にしてしまったようだ。

「今日もまたバカ面で俺の前に現れたがどうした？」

とりあえずかまってやる。

「いや・・・だから俺はバカじゃ・・・・・」

こいつは、豊田雄二。
同じ中学で、結構仲がいい。
いい友人だ。

「明～！今日は始業式だよ！新しい出会いだよ！」

――――バカだけど。

「新しい出会いって言っても、お前まったく去年モテなかったじゃねえか・・・・」

「いや・・・・あの・・・・去年は、本気を出してなかったの。」

恋愛に本気とか弱気とかあるの？
あるねすいません。

「そう！本気を出していなかったんだ！今年はモテまくりだぜ！」

「うん・・・ドンマイ。」

同情したような目で見てやる。

それを現実逃避って言うんだよ。

「うるせぇぇ！ちくしょう！」

そんなこんなで、終業式が終わり、放課後。

普通の人なら、部活に行くが、俺は帰宅部だ。

すぐに帰路につくとしよう。

「明～！帰ろうぜ！」

こいつも帰宅部。

「ああ。」

帰路につこうとした、その時、

「明！ちょっときて！」

幼馴染の、坂田千夏。

幼稚園から一緒で、腐れ縁。

それで――――――――

「早く！」

説明が終わる前に、襟首をつかまれ、

俺はいつのまにか誘拐された。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5847z/

真田高パソ研の日常。

2011年12月19日17時57分発行